

## 世界遺産へ向けて

「世界遺産フォーラム2009」

一何のため、だれのための世界遺産か？－  
<9月号からのつづき…>

山岸市長は、「世界遺産登録は大きな目標ではあるが、地域の誇りや先人の努力によって成り立ってきた今の勝山のまちをアピールし、さらに発展させていくその手段としたい。そして世界遺産は、まちの元気のためのひとつのシンボルとしたい」とお話しされました。

これを受け、3つの世界遺産先進地から、市民との関わりについてお話がありました。各先進地ともに、市民と行政が協調し、さらには市民主導で行政が事務局となって、いろいろなことに挑戦しているようです。

フォーラムを通して、世界遺産は、地域を見直すことにあり、市民のためにあることがわかりました。世界遺産を目指におきながら、豊かでみのりあるまちをめざしていきたいと思います。

## 平泉寺こぼれ話

～第15話～ 平泉寺出土品(その3)

これは何に使われたものでしょうか？

平成元年に、平泉寺で最初の発掘調査が行われました。下の写真は、このとき井戸の中から出てきた銅製の碗です。大きさは、直径8cm×高さ4cmと、とても小さなものです。



答えは、六器(ろっき)とよばれる密教の法具のひとつです。中に水などをいれ、平泉寺の僧が儀式で使っていたと考えられます。

国史跡平泉寺の整備情報誌

## 平泉寺かわら版

No. 15 (2009年12月号)

Merry Christmas  
今号の内容

## 特集！ 南谷に中世の 門と塀を復元！

【発行】

勝山市教育委員会史蹟整備課

【発行日】

平成21年12月24日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話：0779-88-8113(直通)

メール：shisokai@city.katsuyama.fuku.jp



連載

世界遺産へ向けて

平泉寺こぼれ話～第15話～

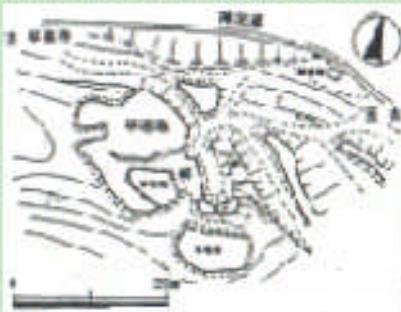
越前禅定道探訪記 その4



現在、平泉寺の南谷では、門や塀を復元するための発掘調査を終えて、復元工事のための設計を進めているところです。

## 越前禅定道探訪記 その4 稚児堂跡(ちごどうあと)

三頭山から法恩寺山に向かっておよそ2km歩くと、広域基幹林道「法恩寺線」に出ます。この林道を横切る禅定道部分には石が敷き詰められ、「歴史的な道」として、整備されました。林道をすぎると右手の高台に稚児堂跡として知られる遺構がみえてきます。平泉寺白山神社所蔵の「白山天嶺境内図」には、「兎卒都婆」と名前がつけられている部分です。遺構は、東西30m、南北20mにわたって広がり、その中央部に中世の石塔をおおう祠があります。稚児堂という名前は、近くの滝に相次いで身を投げた平泉寺の「和光」と「弁の君」という2人の稚児を供養するためにたてられた卒塔婆に由来するといわれています。《奇数号へ続く》



稚児堂跡の遺構略測図



稚児堂跡の祠内にある石塔類

# 平泉寺南谷に中世の門と堀を復元します！！

## 門・堀復元への想い

今から、10年ほど前のことです。学生だった私は、平泉寺に初めてやってきました。恩師に「平泉寺はすごい」と聞いて、自分でも訪れてみたいと思ったのです。この4枚の写真は、その時に撮ったものです。



白山神社にある、小さな案内板を頼りに細い道を進むと、石畳道と石垣が現れました。それも500年以上も前のもの。ただただ、驚きと感激でした。石畳道を進んで行くと、僧坊の出入口という説明板が置いてあり、門の柱をのせた礎石や堀の跡が残っていました。

「ここにはどんな門や堀があって、どんな人が出入りしたのかなあ」と、しばし想いをめぐらせたのです。



それから時は流れ、私は、いつの間にやら、ここ勝山市の学芸員となっていました。こうして、平泉寺の発掘調査を行うようになったのです。そして、現在は、あの時みた、僧坊の出入口の門と堀を復元する、という仕事に取り組んでいます。

②

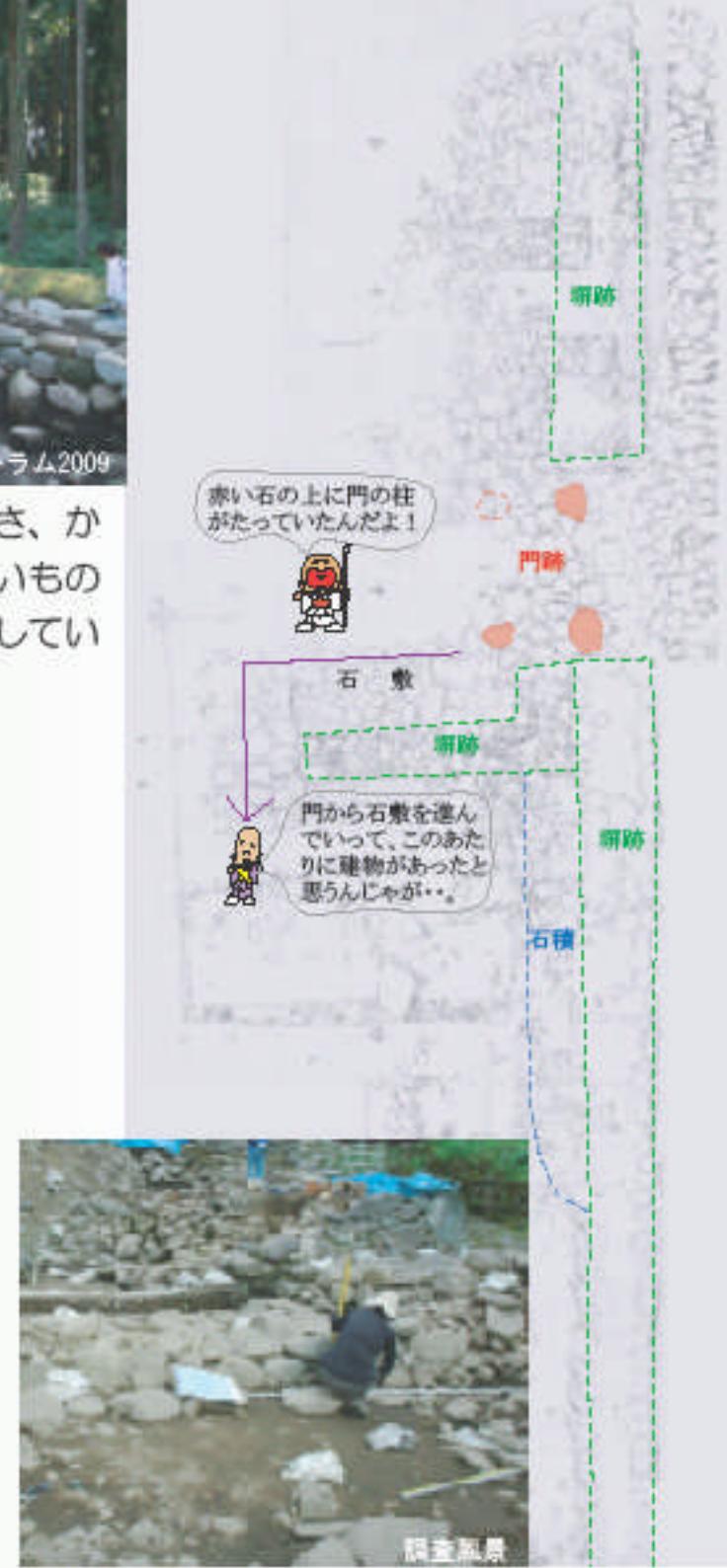
## 発掘調査から復元へ



発掘調査の結果から、門や堀の大きさ、かたち、材質など平泉寺に最もふさわしいものにするため検討を重ね、復元の準備をしていきます。



石をひとつずつ測って、かたちを手で書いて図面をつくりました。



③